なかやま宿　ふるさと史跡まっぷ

（　　）は案内板設置年度

① 御番所跡　（平成12年度）

上杉時代（慶長三年）に此処に境口番所を設けて、一々通行人を監視した。

また、番所には厳重な門構えがあり、そこには突棒、刺股、袖搦、鎗、鉄砲を立並べ、昼は侍、夜は足軽が番をした。

なお、藩公（上杉公の御殿様）が赤湯御入湯の場合には、更に武道の心得ある番士を増やしたということである。

この番所跡の石垣は、故渡辺清蔵氏（現渡辺民子氏）に一部その面影を残している。

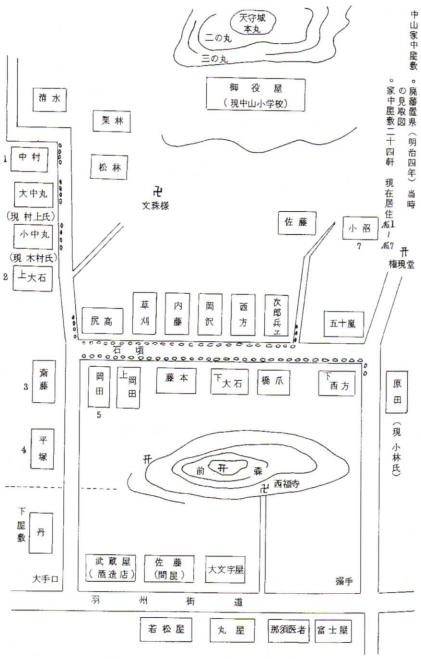
② 上ノ山楯

中山城より200メートル南、通称片倉山の北から南に突き出た半島状の中程に楯の主郭が構築された。主郭の頂部はやや平坦で、三方に低い土塁を配している。西側は狭小な段形が幾重にも取り囲んでいるのは階段状の帯曲輪跡である。東側、綱町の裏山も段々と下り降り幅広い曲輪跡も残され、南西側は果樹園（昭和45年破壊）となっているが、西側から続く帯曲輪を廻していた。中山城を防備するための支楯として構築されたもので、慶長5年（西暦1600）9月、広河原合戦の時、上の山楯の防備もあって、主城を攻めることなく最上勢は引き返した。

③ 中山城跡　（平成10年度）

永禄・元亀（西暦1558～72年）頃、伊達氏の家臣中山弥太郎（中山の地名の起源）が伊達領を最上勢から防塞するため天守山に三の曲輪（くるわ）、二の曲輪、本曲輪の三段の曲輪（郭）を構築した。本曲輪には物見台（天守台ともいう）を設け、その三面には石垣が積まれ、当時の遺構が今も見られる。中世の城としては東北でも屈指の大きさを誇る。物見山楯、上の山楯、前森山楯も自然の地形を利用し、城を守るために築かれた防備の遺跡である。

④ 家中屋敷配置図　（平成10年度）



廃藩置県（明治4年）当時の見取り図
家中屋敷24軒　　現在5軒が残る
～図～

保科氏資料から

⑤ 前森山楯　（平成12年度）

上町の裏山を前森と称し、中山の人達は「前森山」と言っている。「付録中山沿革梗概」には「天守山は左右の両山相迫って最上口の咽喉をなす中央部に屹立、四方は自然の渓谷をなし大手には、前森と称する広陵が横たわり、自然の防塞を造り、其の内方に侍屋敷を配……」とある。中山城の防塞であったが、初め、最上領との境に配置し、置賜地方を守るため、南北朝時代（西暦1331～1392）末頃、伊達氏が構築したと見られる。

山頂は、平坦で狭い郭を配し、その廻りには帯曲輪や三角状の曲輪の遺構が見られ、天守山に城が築かれた後は防塞の楯となった。

⑥ 西福寺（さいふくじ）　（平成10年度）

弘安3年（西暦1280年）一向上人儀空俊聖大和尚の開山。天童市の仏向寺を本山とし、県内でも数少ない浄土宗で、中山で最も古いお寺である。その後2度にわたり再建されたが、現在の本堂は嘉永元年（西暦1848年）に建てられたものである。本尊は阿弥陀如来。境内には市内でも数少ない四十八夜供養塔や薬師十二神将の石仏がある。現在は無住。

⑦ 中山橋

中山（奈可やま）橋は、旧国道が中山の「からじゅく川」を横切るために架せられたアーチ式の石橋である。使われた石材は中川石と称される凝灰岩で、当時の県令三島通庸の郷里である鹿児島県人の石工達を呼び工事を行い、明治13年に竣工した。その目的は、明治天皇の東北御巡幸と本県の産業開発、人文の進展を図るためであった。橋の長さ11.3メートル、アーチの部分を構成する石組みは二重になっており、その上に積まれた石層も厚く極めて堅牢に造られている。（市文化財指定）

⑧ 観音堂　（平成11年度）

天保14年（西暦1843年）の建立といわれる観音堂は、もと龍雲寺の裏山、通称「お観音山」の峰奥に建立されていた。しかし、急な参道であるために参拝者も年々少なく堂は荒れて廃堂になるのではないかと思い、昭和7年現在の「紅山」に移転した。

堂内に安置されている本尊は、高さ17センチ程の金箔塗りの木像如意輪観音座像である。如意輪観音は、女性の守護仏と考えられていたので、龍雲寺が導師となり、観音講を行っていた。旧7月10日には、手先が器用になるようにと縫い物をして願ったりもしていた。別称を「コロリ観音」とも言う。

⑨ 龍雲寺（りゅううんじ）　（平成10年度）

福島県大沼郡会津高田町龍門寺の黙今昌関大和尚が開山。慶長6年（西暦1601年）中山城主横田旨俊が、同5年最上合戦の時に戦死した兵の追善供養に開基、建立した。明治34年（西暦1901年）の大火を経て、現在の本堂は大正12年に再建されたものである。宗派は曹洞宗で、本尊は釈迦牟尼仏。寺宝に狩野幸信の涅槃図がある。境内には向かい地蔵、釜番の地蔵等の石造物、本堂前には一字一石経（小石に経文を一字づつ書写したもの）が散見される。

⑩ 明治天皇御巡幸の碑　（平成10年度）

明治14年（西暦1881年）7月30日、明治天皇が東北御巡幸に出発、同年10月1日龍雲寺で小休したのを記念して昭和16年2月に建てられたのがこの駐輦（れん）碑である。篆（てん）額は当時の陸軍大将小磯国昭氏（新庄）、碑文は東京帝国大学文学博士吉田熊次氏（元中山）、碑文の揮毫（きごう）は当時衆議院議員の西方利馬氏（中山）である。

⑪ 光勝寺（こうしょうじ）　（平成10年度）

甲斐の国（山梨県）武田信玄の家臣、松下右近が武田家滅亡の後真宗の法門に入り、空心と称した。諸国を経廻して羽後（秋田県）亀田に居住し、その後文禄2年（西暦1593年）中山に移住し、寺を開基、建立した。明治34年（西暦1901年）の大火で全焼、同年9月起工、12月仮本堂を再建、追々庫裡も建てられ、現在の本堂は昭和49年（西暦1974年）に建てられたものである。宗派は、浄土真宗本願寺派で、本尊は阿弥陀如来。置賜地方では、浄土真宗は数少ない寺院である。